

父に託されたのは闘うこと

ー水俣病事件から考える地域再生ー

2021. 11. 6 NIMDフォーラム パネルディスカッション



〔社会活動〕

水俣病資料館 語り部 (かたりべ)

〔水俣病事件〕

自主交渉派患者・家族

水俣病被害者手帳 (水俣病特措法:2013年)

〔仕事〕

有限会社 リハシップ あい

作業療法士 言語聴覚士

代表取締役社長

川本愛一郎



祖父の発病と狂死、父母の異変



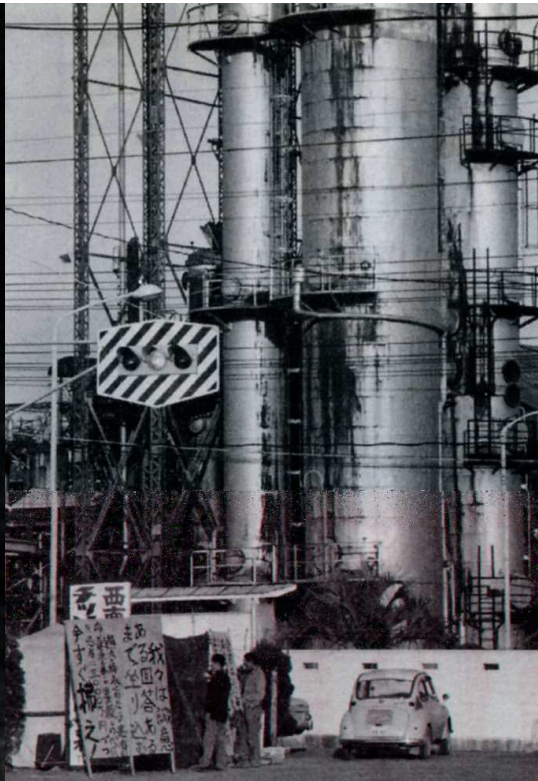
川本愛一郎が小学校に入学した日に、親子4人で記念撮影＝64年4月8日、水俣市月浦の自宅



たった独りからの闘い：潜在患者発掘



失して(見捨てられた)水俣病



自主交渉：チッソ東京本社座り込み



座り込みテント

1年9ヶ月間

(1971 S46年 12月24日～
1973 S48年7月まで)



家族で上京 父を励ます



都心のオフィス街で餅つき。川本ミヤ子も手伝った＝71年12月30日、東京・丸の内のチッソ本社前で

人は幸せになるために生まれてきたはずだ。勇気と信念を教えてくれた父 川本輝夫



熱意とは、ことある毎に意志を表明することには他ならない。



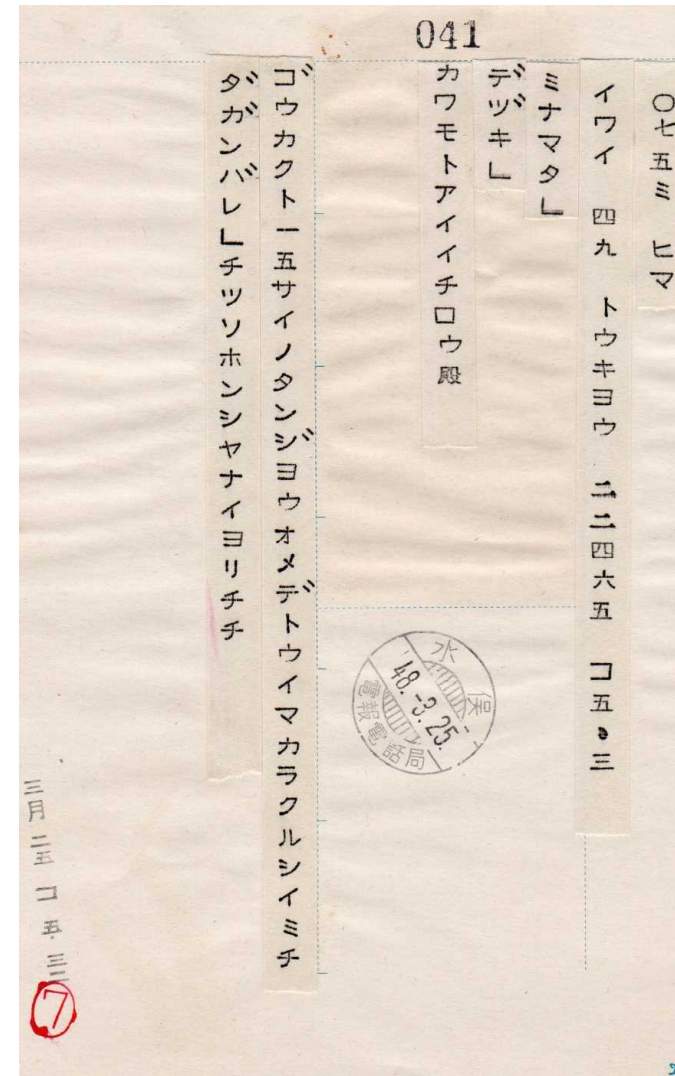
小指を切って血書を書く川本輝夫（背中）と、不安そうに見守る嶋田賢一（左）＝71年12月8日、東京・丸の内のチッソ本社で（宮本成美氏撮影、水俣病センター相思社提供）

1973年(S48)3月20日水俣病第1次訴訟判決:熊本地裁



私の鹿児島県出水高校の合格発表の日でもあった

父(ちち)からの電報(でんぽう)





水俣病語り部活動

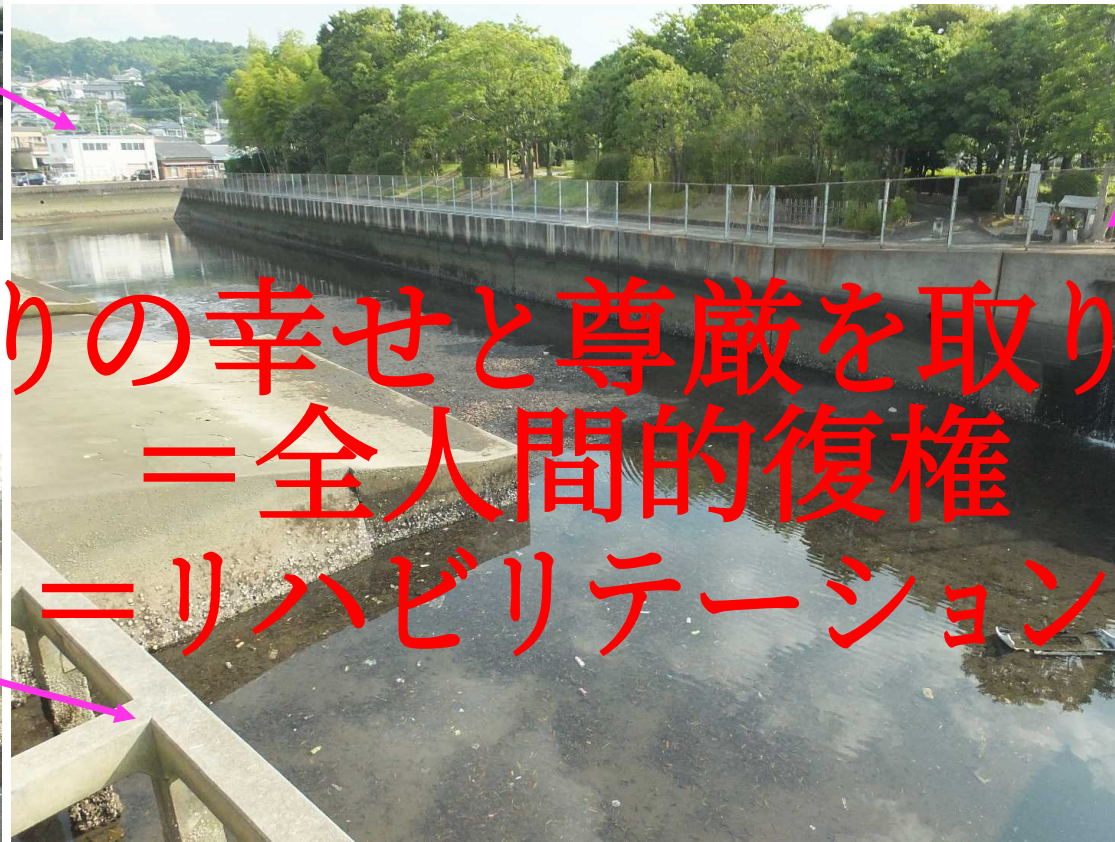


母と二人で新潟へ



語り部の会と見学者交流

水俣病事件 川本家 歴史的3ショット



ご清聴ありがとうございました。